

中核症状と元々の本人の性格・環境で引き起こされる症状 「行動・心理症状」

【不安】

そばに人がいないと不安で落ち着かない。



【抑うつ】

好きだったものに興味関心がなくなる



【妄想】

大事な物が見つからないと誰かに盗まれたと疑う



【拒否】

必要な介護に抵抗する



【不衛生】

室内がゴミや物で散らかっている



【幻覚】

他者には見えない人や物におびえる



【道に迷う】

外出して戻れない



【暴言暴力】

急に怒り出したり攻撃的になる




【睡眠障害】

寝る時間になっても眠れない



などなど

 さまざまな症状が出るのには、必ずそれなりの理由があります。その根本原因が解消されない限り、似たような症状が繰り返し出ることもあります。体調、環境、周囲の対応の仕方などの原因によって生じるので、原因が何か考えて見るとよいです。

- ・ 心理的な要素（不安、さびしさ、怒りなど）
- ・ 周囲の働きかけの問題（いきなり手を掴んだ、大声で呼びかけた、行く手を遮ったなど）
- ・ 体の不調（便秘、脱水、空腹、痛み、かゆみ、運動不足、など）
- ・ 薬の影響
- ・ 環境（騒々しい、まぶしい、なじみがない、臭いがするなど）
- ・ 以前の習慣（毎朝会社へ行っていた、農家で畑を耕していたなど）

対応のヒント（認知症の方の病気や進行にもよっても変わってきますので参考まで）

- 認知症の症状が進行しても、感情やその人らしさは残ります。介護者が認知症の気持ちに寄り添い、尊厳を保ちながら不安や悲しみ、孤独感などを和らげるような関わりが大切になります。環境を工夫することで症状の軽減にもつながります。
- 本人はわかっています。
もの忘れや今までできていた事が出来なくなる変化に最初に気付くのは本人。認知症の人の言葉にできない気持ちを理解し、本人が安心して暮らせる環境づくりが大切です。
- お薬の調整と副作用について
不安定な症状が長期にわたる場合、本人だけでなく介護者の心理的な負担も増大します。そのため、心理的に落ち着かせるような対応で改善しない場合、薬で改善を図ることもあります。かかりつけ医とよく相談し、効果や副作用について、きちんと説明を受けて使用しましょう。